【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成17年8月25日(2005.8.25)

【公開番号】特開2003-36099(P2003-36099A)
【公開日】平成15年2月7日(2003.2.7)
【出願番号】特願2002-202211(P2002-202211)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ１０Ｌ　19/12
　Ｇ１０Ｌ　19/00
　Ｇ１０Ｌ　19/04
【ＦＩ】
　Ｇ１０Ｌ　9/14　　Ｓ
　Ｇ１０Ｌ　9/14　　Ｊ
　Ｇ１０Ｌ　9/18　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成17年2月18日(2005.2.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】音声復号化方法及び音声復号化装置
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　少なくとも駆動符号帳を用い、入力音声符号に基づいて音声を合成する符号駆動線形予測（Code-Excited LinearPrediction ： CELP）音声復号化方法において、
　上記駆動符号帳が出力する第１の時系列ベクトルを変更して振幅値がゼロのサンプルの数が上記第１の時系列ベクトルとは異なる第２の時系列ベクトルを生成する時系列ベクトル生成ステップと、
　第１又は第２の時系列ベクトルの何れかを選択する選択ステップと、
　上記選択ステップにおいて選択された時系列ベクトルを用いて音声を合成する音声合成ステップと、
を有することを特徴とする音声復号化方法。
【請求項２】
　駆動符号帳と適応符号帳とを用い、入力音声符号に基づいて音声を合成する符号駆動線形予測（Code-Excited LinearPrediction ： CELP）音声復号化方法において、
　上記駆動符号帳が出力する第１の時系列ベクトルを変更して振幅値がゼロのサンプルの数が上記第１の時系列ベクトルとは異なる第２の時系列ベクトルを生成する時系列ベクトル生成ステップと、
　第１又は第２の時系列ベクトルの何れかを選択する選択ステップと、
　上記選択ステップにおいて選択された時系列ベクトルと上記適応符号帳が出力する時系列ベクトルとを加算しその加算結果に基づいて音声を合成する音声合成ステップと、
を有することを特徴とする音声復号化方法。

【請求項３】
上記入力音声符号を復号化して、復号化区間におけるゲインを取得するゲイン復号化ステップを有し、
上記選択ステップにおいて、第１又は第２の時系列ベクトルの何れかを上記ゲインに基づいて選択することを特徴とする請求項１又は２に記載の音声復号化方法。
【請求項４】
少なくとも駆動符号帳を用い、入力音声符号に基づいて音声を合成する符号駆動線形予測（Code-Excited LinearPrediction ： CELP）音声復号化装置において、
上記駆動符号帳が出力する第１の時系列ベクトルを変更して振幅値がゼロのサンプルの数が上記第１の時系列ベクトルとは異なる第２の時系列ベクトルを生成する時系列ベクトル生成手段と、
第１又は第２の時系列ベクトルの何れかを選択する選択手段と、
上記選択手段により選択された時系列ベクトルを用いて音声を合成する音声合成手段と、
を備えることを特徴とする音声復号化装置。
【請求項５】
駆動符号帳と適応符号帳とを用い、入力音声符号に基づいて音声を合成する符号駆動線形予測（Code-Excited LinearPrediction ： CELP）音声復号化装置において、
上記駆動符号帳が出力する第１の時系列ベクトルを変更して振幅値がゼロのサンプルの数が上記第１の時系列ベクトルとは異なる第２の時系列ベクトルを生成する時系列ベクトル生成手段と、
第１又は第２の時系列ベクトルの何れかを選択する選択手段と、
上記選択手段により選択された時系列ベクトルと上記適応符号帳が出力する時系列ベクトルとを加算しその加算結果に基づいて音声を合成する音声合成手段と、
を備えることを特徴とする音声復号化装置。
【請求項６】
上記入力音声符号を復号化して、復号化区間におけるゲインを取得するゲイン復号化手段を備え、
上記選択手段は、第１又は第２の時系列ベクトルの何れかを上記ゲインに基づいて選択することを特徴とする請求項４又は５に記載の音声復号化装置。